

## 駒場野公園大池のかいぼり・浚渫（令和2年度）について

### 1 経過

平成26年3月に策定した「目黒区生物多様性地域戦略」では、駒場野公園をいきものの供給拠点、自然とのふれあいの場として生物多様性保全林に指定している。そこで、東京都の「区市町村との連携による地域環境力活性化事業」を活用して、駒場野公園生物多様性保全林事業を平成30年度から令和2年度の3箇年で実施することとし取組を行っている。

実施にあたっては、公園内で活動している地域住民、ボランティア団体、小学校等の参加を得ながら進めていくことで、公園内の豊かな生物多様性について普及啓発を図り、公園内に残る多様な自然環境を保全・回復していくこととしている。特に、水辺地については、水生生物の生息状況を事前に把握するため、令和元年度と令和2年度にかいぼり・浚渫を行い、生物モニタリング調査を実施し、水辺地保全に向けた取組を行うこととした。

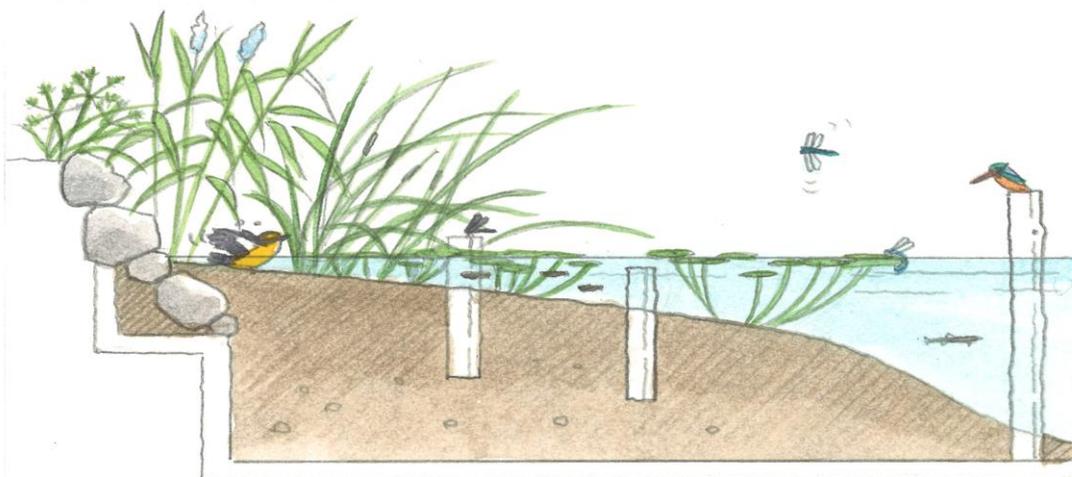
### 2 大池の問題点

昭和61年の開園当時、駒場野公園の大池は日当たりの良い場所だったが、現在では周辺の樹木や水辺の植物が生長し、水面を覆うことから、水鳥やトンボ等が水面を見つけにくくなり、飛来数の減少が見られる。また、平成25年度に実施した生物多様性保全基礎調査では、池底面の汚泥の堆積により、水深が浅くなり、水生植物群落の陸地化の進行が見られる。

### 3 かいぼり・浚渫内容

令和元年度は池の状態を調査することを主な目的として、池の奥の一部でかいぼり・浚渫を行った。令和2年度は、残りの部分について本格的にかいぼり・浚渫等を実施する。

池のかいぼり・浚渫等を行うことにより、陸地化した部分を水面に戻し、水深を確保することで水量を蓄えられるようにするとともに、生物多様性に配慮した、水辺の生物の生息環境を創る。



イメージ図

